

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。

答申（案）

令和 7 年 3 月

茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会

目 次

1 諮問内容―「検討を求める事項」	・ ・ ・ ・ ・ 2 ページ
2 審議の結果	・ ・ ・ ・ ・ 2 ページ
3 各委員からの意見	・ ・ ・ ・ ・ 4 ページ
4 結びとして	・ ・ ・ ・ ・ 1 6 ページ
5 資料編	
資料 1 諮問書	・ ・ ・ ・ ・ 1 9 ページ
6 茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会委員名簿	・ ・ ・ 2 1 ページ
7 茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会会議の開催状況	・ 2 2 ページ

令和 7 年 3 月 3 1 日
茅ヶ崎市立南湖公民館

館長 星 谷 尚 央 様

茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会
会長 亀 山 計 次

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。(答申) 案

令和 6 年 6 月 4 日付文書で南湖公民館長より諮問のありました標記のことについて、次のとおり答申します。

1 諮問内容―「検討を求める事項」

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。

2 審議の結果

本件については、令和 6 年 6 月 4 日に開催されました令和 6 年度第 1 回南湖公民館運営審議会において、南湖公民館長より、検討を求める事項として「社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。」を、次の理由から諮問を受けました。

(1) 諮問の理由

公民館は、教育基本計画の基本理念のもとに定められた基本方針 2「ひとづくり、つながりづくり、地域づくりを進める社会教育の充実」を踏まえて、日々の公民館事業を進めています。公民館は社会教育活動の場として、市民の「つどい・まなび・むすぶ」を支援する機能を有しています。しかし、今、社会においては、少子高齢化や将来的な人口減少により、人々の交流が減る傾向にあり、そこに追い打ちをかけるようにコロナ禍を迎えたことで、一層の人とのつながりの希薄化が浮き彫りとなっています。その影響がとりわけ地域における子どもや高齢者に現れているとすると、今、特に「子育て」と「高齢者」を「課題」として捉えていく必要があると考えます。公民館は学ぶ場であるとともに、人と人とを結ぶ場でもあり、地域づくりの拠点でもあります。地域に現れている「子育て」と「高齢者」の「課題」について考える際に、この三つの機能を持ち、地域に関わる公民館に求められる役割を考える必要があります。

まず、「子育て」について考えると、公民館を利用する子どもたちは、小学生や中学生が主で、公民館は放課後や休日等の時間の居場所として、あるいは更に学ぼうとする子どもたちを公民館の子ども関連講座等に受け入れたり、公民館まつりにも作品の展示等してもらっています。公民館以外でも多くの子どもたちが地域の行事等にも参加していることと思います。人と人とのつながりが希薄化するなかで、育児不安解消のための育児相談や不登校の問題等の家庭教育支援の講座も開催をしています。地域での人の交流が減る傾向にある現状で、子どもや子育てに関して公民館にどんな役割が求められているのでしょうか。学び、人と人をつなぐ機能の有する公民館は、子どもや保護者が興味・関心を持ち、必要としている公民館講座等を開催しもっと多くの人に参加してもらったり、また子どもが安心していられる場所として公民館の利用をもっと促していく必要があると考えます。その他に、公民館のある地域と学校の連携・協働については従来にも増して求められています。地域のつながりが希薄化している今、「学び」、「地域交流」、「世代間交流」の機能を持つ公民館の特性を生かし、子どもや子育てについて公民館の果たせる役割を考えてみる必要があります。

次に「高齢者」について考えると、厚生労働省の発表では2019年の日本人の女性平均寿命87.4才、健康寿命75.3才、男性平均寿命81.4才、健康寿命72.6才でした。およそ75才を過ぎると要介護者として過ごす高齢者が徐々に出てきて、75才を過ぎても元気に活動的に過ごすことが出来れば、生き生きとした生活を送ることが出来ると言えます。例えば、公民館でのサークル活動や主催事業に参加することで、自分たちの健康増進や楽しみ、生きがい、やりがいを得るという方法もあります。しかし、進む高齢化や人とのつながりの希薄化により、例えば、日常の困りごとに始まり、不明者、オレオレ詐欺、避難行動要支援者などが現実の課題として現れています。公民館は生涯学ぶことができる場であり、また地域の拠点でもあります。高齢化が進む現在、高齢者が直面する課題に対して地域の公民館が果たす役割を考えてみる必要があります。

以上のことから、上記1の「検討を要する事項」について諮問いたしますので、御審議の上、答申くださるようお願いいたします。

(2) 答申に向けて

当該諮問を受け、本審議会では各委員の意見を取りまとめ、一本化するという形式ではなく、各推薦団体代表の立場から、多様な意見を出していただき答申に反映させることとしました。

今回の答申が、今後、本市のより良い社会教育の実現に向けて、南湖公民館が担っていく役割を考える一助となることに期待します。

3 各委員からの意見

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。

亀山 計次 会長（南湖地区社会福祉協議会）

諮問事項「現代社会は少子化、子育てと高齢化対策の状況下であり、多くの課題を抱えている中、公民館に求められる課題について」、本市のよりよい社会教育の場を活用して改善を実現していく為の方策について特効薬的施策はありません。問題の高齢化は少子化が大きな基因にある点です。この社会の構造的な少子化となった要因に大きく関わっているのは家族制度の崩壊では、と考えます。人間の生き方や生活を根本から見直す事が出来るかが問題です。親子や兄弟祖父母を含め一つ屋根の下で生活を共にした家族はお互いに助け合い支え合いながら生活の中で、自然に育まれてきた。現代の社会では構造的に、この種の課題は、セクハラ、パワハラとしてとらえられ、取り上げることが困難と思われます。少子化は子育てだけの問題ではなく、若年層の生き方の価値観が大きく影響していると考えられます。しいて言えば、親子の絆を深める事から始めて、高齢者との交流を通じて、少しずつ気持ちを通い合わせることが必要かと思います。日常生活の中に人が人として、どうあるべきかを育み、自己を支え、社会を支える一人として、成長する事を望みます。そのような社会構造の構築こそが公民館が社会教育の場としての役割ではと存じます。その対策の一環として、大家族の中で生活を体験してきた高齢者の体験を聞くのが良いのでは、地域の子供会の役員との世代間の交流を通して、それは可能でないでしょうか。その上で、少し時間がかかるが、若年者の生き方の価値観が変わる事を期待したい。

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。

三觜 健一 委員（南湖地区まちぢから協議会）

現在少子高齢化や核家族化が進んでいる中で、いままでは老人から子供たちまで三世帯が一軒の家の中で生活しておりお互いが支え合い、助け合ってくらしてきた生活が、最近ではそれぞれが独立して一家を構え世帯主となって暮らしていく時代となってきました。

これまでは両親が働いて不在の時は、年寄りが孫の面倒をみて色々な注意事項や危険な場所、生活態度また地域の伝統文化の話まで教えていくことができました。

また、高齢者も家の中での自然な役割が与えられ毎日の生活の中でもある意味充実感が身近にあったと考えられます。

ところが近年は生活水準が上がり、子供たちが両親の家に同居せずとも済むように収入が満たされ、住宅の購入だけでなく同時に車や、家電製品などグレードアップしたものが容易に手に入るようになっております。しかしながらその分核家族化の影響で家族間での話し合いや助け合いが希薄化していると同時に他者とのつながりも少なくなってきております。

こういう状況の中でまず考えられることは、それぞれが改めて自分の居場所を作り、そこで何が出来るかを考え実施していくことが必要で、その場所の一つとして公民館の存在が考えられます。

いま子供たちには各所で子ども食堂が始められ貧困対策だけでなく親たちの交流、情報交換の場ともなっております。

また高齢者に対しては各福祉団体等がそれぞれ施設を使いサロンやボラセンによるお手伝い、介護施設による各種対応を通して接触の機会を作っております。公民館もそれぞれの活動については講座を開いて提供をしておりますが、地域交流や多世代交流の機会を増やしシニアと子供たちがもっと接触する機会を作ってもらえればと考えます。

子ども達は核家族化の中で高齢者と接触する機会がなくなってきており、シニアとはどう対応したらいいのかもわからない、というのが現実だと思います。まずは自分たちがしてきた昔からある囲碁・将棋やコマ回し、凧揚げなどなど子ども達と一緒に遊べることで、きっかけをまず掴んでもらい、シニアも教えるということで新たに自分も勉強

し直す機会が出来れば地域の昔話やいろいろな出来事など語り継ぐような場所として提供が出来ればよいのではと考えます。

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。

鈴木 葉子 委員（西浜学区青少年育成推進協議会）

コロナ禍で途切れた公民館の「つどい・まなび・むすぶ」はその後もSNS利用の多様化、人間関係の希薄化などによりその機能を十分に発揮できずにいるように思えます。しかし、令和5年度の教育委員会の調査によれば社会教育施設において利用者数の回復傾向がみられ、各館の主催事業では対面実施のニーズが高まり、フィジカルな関わりを地域に求める傾向が現れています。一定期間閉鎖的な状況に置かれていた人々は、漸く以前のような人と人の繋がりやみんなが集うことの楽しさを思い出してその機会を欲していると思います。公民館は地域の社会教育施設としてのニーズに応え、実際に立ち寄りやすく、利用したくなる施設や環境を整え、何より充実した事業や講座を企画するのは勿論ですが、子育て世代、高齢者の課題に寄り添うためにはより細かい対応が求められます。

子育ての課題の一つに格差があげられます。教育格差、体験格差、地域格差などが主なものですが、地域の社会教育の拠点である公民館は誰でもが数々の体験と学習をする機会を得られること地域のなかでの格差を少なくすることに貢献できるでしょう。特に子育て世代にとっては公民館が頼れる存在であるという役割が求められます。

子ども時代に体験活動の経験が少ないと、親になっても子どもに体験活動を十分にさせなかったりその必要性に気づかなかったりします。様々な理由でいろいろな体験ができない子どもたちも公民館へ出入りすることや、新しい体験にチャレンジをする機会を得ることで、そのたびに体験や経験が蓄積されていきます。子ども時代の豊富な体験が親になりその子どもたちにも影響するという事を考えれば、将来につながる人づくりを支援することになるでしょう。

また、家庭では体験できなくなった地域の伝統行事や、風習などを踏まえた事業を公民館が積極的に事業に取り入れて子供たちが参加し体験することで、地域の文化の継承を支援するのも公民館の大きな役割だと思います。

子どもたちの参加には保護者の理解が欠かせません。公民館は機会あるごとに保護者世代にも公民館が安心して子どもを参加させられる場所であることをわかってもらえるように親子で参加できる企画や親自身が公民館を身近に感じる事業を工夫していく

ことも重要です。

高齢者を取り巻く課題に対し公民館が求められている役割については、他施設との協働もあると思います。南湖地区には高齢者施設である「しおさい南湖」があります。高齢者に特化している施設のため当然公民館に比べすべての面で高齢者に優しい施設です。施設（場所）という面からいえば、高齢者向けの企画をあえて公民館でなくても、企画力や事業力をなどのソフト面で力を発揮して高齢者施設などをバックアップするのも役割の一つだと思います。

高齢者の課題では孤立化が大きな問題となっています。孤立化は一人暮らしであることだけでなく、身体的な健康課題、生活環境の課題、経済的な課題などにより社会とのかかわりが希薄になり、やがて生活意欲が低下し認知症や孤独死につながってしまいます。こうした状況になってから公民館に求められる役割はほぼありません。こうならないように早い段階から高齢者になったときに不安なく暮らしていける情報、学習機会を提供し、それを実践活動に結びつけ、仲間作りが出来る拠点の場となるように協力していくことが求められます。

高齢者といってもお元気な方はたくさんおられます。講座や催し物を見に来るだけでなく、地域の歴史や文化の語り手としてや、経験を生かした技や特技を生かす企画やお手伝いなど能動的に公民館にかかわる機会を提供することで、やりがいや張り合いのある暮らしのきっかけを作るのも公民館の役割の一つだと思います。

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。

渡邊 千奈 委員（南湖公民館利用者懇談会）

日頃、南湖公民館には一利用者として大変お世話になっております。市民の「つどい・まなび・むすぶ」を支援する場として開かれている公民館と、公民館の活動を維持・発展させる上で大きな役割を果たしてくださっている職員の皆さまに心より感謝申し上げます。

さて、「社会における子育てや高齢者についての課題」は多数ありますので、このたびは論点を1点ずつ絞りたいと思います。

◆ 子育ての課題；育児不安

インターネットやSNSの普及により育児の情報を安易に取得できる一方、コロナ禍以降加速したように思われる地域の人間関係の希薄化により、子どもを持つ親同志の付き合いが減少していることも一因と考えられます。

◆ 高齢者の課題；高齢者のQOL低下

定年を迎えることで社会とのつながりが薄れ、活躍意欲が満たされない場合、また、収入が年金のみとなり経済的な不安を抱えた場合などに、高齢者の生活の質が低下する恐れがあります。

これらの課題における公民館の役割について、以下に意見を記します。

◆ 子育ての課題について公民館に求められる役割

公民館は住民の自発性に基づく運営を重視されてはいるものの、現代の子育て世代においては我が子を育てることに精いっぱいであり、自発的に活動を興すことよりも、用意された場に参加することの方に意義を感じているように見受けられます。子育て中の親たちの交流、或いは子育ての先輩にあたる世代と気軽に話せる場の設置について、公

民館の積極的なはたらきかけに期待します。

土日祝日も開館しているのは公民館の強みと言えます。乳幼児をもつ親を対象とした親子一緒に参加できるイベントやフリースペース、子育ての悩みに関する相談への対応、これらが土日祝日にも多く開催されることを望みます。また、子どもの遊び場としての開放も引き続きお願いします。小中学生をもつ親にとっては、子どもを安心して遊ばせられる場として、ロビーや広場の開放が歓迎されています。図書館分室があることも魅力的です。

関連施設との連携も図りながら、今後どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 高齢者の課題について公民館に求められる役割

すべての年代の人々が希望に応じて意欲・能力を活かして活躍できる場として、社会教育施設である公民館は重要な役割を担っています。高齢期の暮らしを充実させるためには地域コミュニティが不可欠です。公民館は幅広い年齢層を対象とした多様な学習機会の充実を促進し、高齢者が学習できる環境の整備に努める必要があります。

そして、社会活動への参加を促し、高齢者の生きがいの獲得や健康な身体づくりをサポートするには、公民館が物理的に利用しやすい場でなければなりません。

令和6年度南湖公民館利用者懇談会第1回全体会では、サークル活動に参加する高齢者のための階段昇降機の設置について要望が出されました。学習意欲を持ち、健康な身体づくりのために来館しているのに、活動のための重い荷物を持って階段を昇降しなければならないことは身体的な負担が大きく、また、非常に危険なことでもあります。

令和6年度第1回公民館5館利用者懇談会では、鶴嶺公民館利用者懇談会より、鶴嶺でも南湖と同様の意見が出ているという賛同の声がありました。（なお、香川公民館にはエレベーターがあるため、その点は問題ないとも伺っております。）

高齢者が利用しやすく、今後も末永く生きがいを持って通える施設であるために、利用者懇談会は南湖公民館のみならず必要とされる各公民館に階段昇降機等設置の検討を望みます。

◆ まとめ

子育て世代の育児不安、高齢者のQOL低下を解消できる場が必要ですが、公民館は

まさに、関係する機関・団体と住民同士をつなぎながら、それらの課題解決を目指すことのできる施設です。

この地域で暮らす様々な年代の人々が集い、互いを認め合い、生きがいを持って生活していくために、公民館はスピーディー且つ臨機応変に、状況に応じて課題を解決していくことが期待されます。

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。

上野 明子 委員（西浜中学校PTA）

公民館は地域社会における子育て支援の重要な役割を担う施設です。茅ヶ崎市の公民館は小学校と中学校のそばにあることが多いです。公民館はこの立地を十分に生かし、積極的に子どもたち及び子育て世代へのサポートを行っていただきたいと思います。以下、主に小中学生およびその家庭に焦点を当てて公民館の役割と可能性を考えました。

小学生の居場所提供（放課後）

部活動や塾で忙しくなる子が多い中学生と比べると、多くの小学生にとって放課後の時間は非常に重要です。しかし共働き家庭の増加により、防犯上の理由や家庭の諸事情により友人との交流や外で自由に遊べない子が増えています。安心して過ごせる居場所として児童クラブがありますが学年がひとつ上がるたびにに入れる可能性が下がります。ですので、児童クラブに入れなかった子や馴染めなかった子へ公民館が安全な居場所を提供することで学校外の生活環境を整えることができると考えます。また、将来的には小学校と連携して家に帰らずにそのまま公民館によれるようなシステムづくりをすすめることで子どもたちだけでなく共働き世代へのサポートにも繋がっていくのではと考えます。学校との連携はルールづくりや責任の所在など非常に難しい部分があるとは思いますが、真剣に考えていかななくてはならない問題ですので是非検討していただけたらと思います。

デジタル学習環境の提供および不登校の生徒へのサポート

オンライン学習の可能性が高まる中、公民館は無料のインターネットアクセス環境の提供を通じて家庭で十分な環境が整わない子どもたちに対しての学習のサポートを行うことができます。今後も無料でのインターネット環境の提供は継続・推進していただきたいと思います。

また、小・中学校では不登校の生徒への対応が大きな課題となっています。学校には行きたいけれど中に入る勇気が持てない子には公民館のネットワーク環境を利用して学校の先生や専門のカウンセラーの方など専門家の方との交流をサポートすることができるのではないかと考えます。また、近隣の学校と連携して不登校の子が公民館行事

へボランティアとして参加するといった活動も心身ともに良い影響が出るのではないかと思います。家の外へ出て公民館や地域の方と「おはよう、今日は暑いね、ありがとう、またおいでね」など些細な言葉をやりとりするだけでも子どもたちは地域社会との接点を感じられ「見守られている安心感」を感じられますし、ボランティア活動では「人の役に立てたという自己肯定感や充実感」を感じることができるのではないのでしょうか。

次世代ボランティアの育成

地域の子育て支援には地域と子育て世代のボランティア双方の協力が大変重要になります。具体的な例をひとつあげるとするならばやはり治安維持活動ではないかと思います。防犯パトロールや小学生の登校時旗振り活動および下校時見守り活動はトラブルや犯罪を未然に防ぐ役割を果たしています。「子どもだけで安全に登下校できる」という環境は決して当たり前ではありません。ボランティアのサポートがない場合には、低学年の小学生の保護者は必要に応じて自分たちで送り迎えをしなければなりません。こういった活動を支えているのは大勢のボランティアですが、昨今ボランティアの高齢化に悩まされている地域も少なくありません。次世代にボランティアのバトンをつなげていくには、世代間交流が必要です。ですが、核家族が増えている現代では「世代間交流」は行われません。公民館にはたくさんの講座やイベントがありますので是非ボランティアのバトンをつなげていくためにも「世代間交流」の観点を大切にしつつ、また交流だけに終わらず「認め合う」関係につなげていけることを願っています。

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。

人見 隆志 委員（茅ヶ崎市立西浜小学校教頭）

1. 社会的な役割

公民館は、地域社会の一員として住民同士のつながりを強化する場であり、多様な世代やバックグラウンドを持つ人々が交流できる場所です。地域の課題やニーズを反映したイベントや講座を開催することで、社会的な孤立を防ぎ、住民の意識向上や地域力の向上に寄与します。特に、現代社会では都市化が進む中で、地域の結びつきが希薄になりがちですが、公民館がその解決の一助となることが期待されます。

2. 子育て支援の場としての役割

少子化と共働き家庭の増加に伴い、地域における子育て支援の需要が高まっています。公民館は、育児相談や親子教室、地域の子育てネットワーク作りの拠点としての役割を担うべきです。また、育児中の親同士が情報交換や交流を行える場所を提供することで、育児の孤立感を軽減し、親子ともに心身の健康をサポートすることが求められています。

3. 高齢者支援の場としての役割

高齢化社会において、公民館は高齢者が生きがいを持ち、健康で自立した生活を送るための支援を行う場としての役割が重要です。高齢者向けの健康教室や趣味のクラブ、地域ボランティア活動の推進を通じて、高齢者が社会参加する機会を提供します。また、孤立しがちな高齢者のための居場所作りや、地域住民との交流の場を提供することで、孤独感を和らげることが期待されます。

まとめ

公民館は、地域社会において多様なニーズに応えるための重要な施設です。社会のつながりを強化し、子育てや高齢者支援を推進することで、公民館は地域の住民が安心して暮らせる社会を形成する一助となるでしょう。これからの時代、地域社会の中核としての公民館の役割はますます重要になっていくことが予想されます。

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。

熊澤 俊晴 委員（神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校副校長）

新型コロナ禍の対面活動の停滞を経て学校活動や社会活動が大きく制限され変化している。新型コロナの第5類への移行から従前の型に戻りつつあるが、感染症を意識しながらの数年間の活動の停滞を取り戻すには今少し時間がかかりそうだ。コロナ禍で進んだ在宅勤務や、高等学校等での一人一台端末やオンライン授業など「副産物」もあり、それぞれの活動を以前に形に戻すことだけがミッションではなく、新しい生活様式にふさわしい活動支援が求められている。

地域によって差異はあるかもしれないが、高等学校と地域公民館の関わりについては、残念ながら希薄であると言わざるをえない。本校生徒で何人の生徒が公民館に出向いたことがあろうか。高校生が参加する、あるいは、可能であれば高校生が指導や運営をする公民館のイベントをまずは単発実施し、そこから定着を目指したい。高校生は大きな力を持っている。この力を活用しない手はない。まずは部活動等の単位で公民館をはじめとする地域の行事などに参加させたい。地域イベントの呼びかけに対して生徒が自ら手を挙げることは多くはないが、個別に参加を促すと、思いがけず積極的に取り組む姿を目にすることがある。コロナ禍での停滞はあったが、生徒達も潜在的に求めていると考える。学校のスケジュールの関係から日程の調整や機材の運搬等問題は山積するが、少しずつ解消が図られよう。

高校生が活動の指導や運営に関わることで、子どもから高齢者と世代を超えての交流は図られていく。高校生との交流を通し、特に、小中学生の子どもたちにとっては、公民館等の活動の次の担い手となることが期待できる。また、子どもや孫世代が場に集うことで高齢者もイベントに参加する機会となると考える。

個々の公民館の取り組みだけでは限られるので、市や行政の枠を超えた取り組みが必要である。画一的になる必要はないが、それぞれの良い取り組みについては共有を進めたい。

高等学校の立場から、公民館の取り組みや実践が地域や地域の学校により見える形で進んでいくことに期待します。

4 結びとして

今回の諮問内容は、社会における課題であると同時に、地域そして公民館における課題とも言えます。この課題に対して、各委員からは、それぞれの立場から多岐にわたる意見を頂戴しました。

子育て、高齢者についての課題に対しては、それぞれの課題に寄り添い、より細かい対応が求められます。各委員からは多くの意見が寄せられましたので、順に見ていきます。

・子育てについて

少子化と共働き家庭の増加や、コロナ禍以降加速した地域の人間関係の希薄化により、子どもを持つ親同士の付き合いが減少したことで、地域における子育て支援の需要が高まっています。育児の孤立感を軽減し、親子ともに心身の健康をサポートすることを求めています。育児相談や親子教室の開催、地域の子育てネットワーク作りの拠点として、公民館に期待する意見が多くありました。子育て中の親たちの交流、或いは子育ての先輩にあたる世代と気軽に話せる場の開催などです。また、まずは親自身に公民館を身近に感じてもらう必要があることから、親子で参加できる事業の工夫も必要とのことでした。

土日祝日も開館している公民館の強みをいかし、公民館に育児相談、親子教室やフリースペースを土日祝日に開催してもらいたいとの要望や、公民館のロビー等も子どもを安心して遊ばせられる場として大事であるとの意見もありました。

公民館が小学校と中学校のそばにあるという立地を生かし、公民館に子どもたちや子育て世代へのサポートを求める意見もありました。例えば、小学校と連携して放課後の小学生に対して公民館が安全な居場所を提供したり、公民館の無料のインターネットアクセス環境の利用を通じての学習サポートや、学校に行きたいけれど行けない子どもたちへの交流のサポート、また、不登校の子が公民館行事へボランティアとして参加するといったことがあげられていました。

防犯パトロール等についてはボランティアの高齢化の現状に対して、ボランティア育成の面で公民館の世代間交流の機能をいかせないかという意見がありました。

以上のような意見を参考にしながら、可能な範囲で親子ともに心身の健康をサポートしていくことは公民館の役割の一つであると思います。

・高齢者について

定年を迎えることで社会とのつながりが薄れ、高齢者のQOL（生活の質）が低下する恐れがあります。孤立しがちな高齢者のために孤独感を和らげる居場所づくりや、地域住民との交流の場を提供することが求められています。高齢者向けの健康教室や趣味のクラブ、地域ボランティア活動を通じて、早い段階から高齢者の生きがいの獲得や健

康な身体づくり、そして仲間作りをサポートする場が求められます。さらに、年長者は、講座を見に来るだけでなく、自らの経験や知識を子どもたちに伝えたり、今までに培った技や特技を生かして地域社会に貢献したり、自分から地域に関わっていくことも必要です。そういったいくつかの場の提供をすることは、公民館の役割の一つであると考えます。

高齢者が引き続き生きがいを持って通える施設であるために公民館への階段昇降機設置の検討や、あるいは老人憩の家しおさい南湖などの他施設との連携した事業などの意見もありました。

地域社会で高齢者が末永く生きがいを持って生活していけるようになることを願っています。

子育てや高齢者についての個別の課題以外にも、多くの委員が子どもたちと高齢者との交流の大切さを述べていました。世代間交流についての各委員の意見としては、

・世代間交流について

核家族化の影響で家族間の話し合いや助け合いが希薄化しており、他者とのつながりも少なくなっているため、地域交流や多世代交流の機会を増やしシニアと幼児・小中学生を中心とした子どもたちがもっと交流する機会を作ってもらったほうがよいとの意見が多くありました。例えば、囲碁・将棋やコマ回し、凧揚げ、地域の昔話や伝統行事などの提供が出来ればよいのではと考えます。近隣の高校生と公民館の関わりがあまりない現状に対しては、高校生が部活動単位で参加等する公民館のイベントをまずは単発実施し、そこから定着を進め世代間交流へとつなげていけるのではないかと意見がありました。多世代の交流をすることで子どもと高齢者が気持ちを通いあわせ、地域全体が活気に満ちたものになると考えます。多世代交流を進めることは、公民館の役割の一つだと思います。

以上が、子育てや高齢者について、そして世代間交流について各委員からの主な意見です。

公民館の目的は、社会教育法第20条に明記され、そして茅ヶ崎市教育大綱があり、それを達成する手段として茅ヶ崎市教育基本計画があります。その重点施策として「学びと交流を通じた地域の教育力の向上」があり、重点施策以外の施策として「家庭教育・幼児期の教育を支えあう環境の醸成」があります。

具体的には公民館事業として、社会教育法第22条により、教育基本計画を踏まえて、子ども事業、家庭教育支援関連事業、シニア事業、地域課題解決等事業などジャンルごとに各種の主催事業を展開していることと思います。公民館は地域社会に根ざした学びと交流とつながりの場として、魅力的な主催事業等の学びを実現することが可能です。たとえば、公民館で子育てや高齢者についての地域課題をテーマにした主催事業を企画

し、学ぶ場を提供したり、公民館が持つ交流の場を提供したりすることも出来ます。

現在も子育てや高齢者に関する講座は公民館において数多く開催されていることと思いますが、さらに工夫された魅力ある主催事業を開催するために、今回の答申が公民館にとって一助となればよいと思います。

子育てや高齢者についての課題に対して特効薬的な施策はないとは思いますが、少し時間はかかっても、施策、具体的には公民館の工夫された各種の主催事業を積み上げていくことが大切です。公民館による地域に根差した教育や交流を通じ、公民館が地域の中で成長し、子育てや高齢者についての課題に対してはもとより、地域社会が活気に満ちたものとなることを願っています。

南湖公民館運営審議会

会長 亀山 計次

5 資料編

資料1 諮問書

令和6年6月4日

茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会
会長 亀山 計次 様

茅ヶ崎市立南湖公民館
館長 星谷 尚央

茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会に対する諮問について

社会教育法第29条第2項の規定に基づき、次のとおり諮問します。

1 検討を要する事項

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の公民館に求められる役割は何か。

2 理由

公民館は、教育基本計画の基本理念のもとに定められた基本方針2「ひとづくり、つながりづくり、地域づくりを進める社会教育の充実」を踏まえて、日々の公民館事業を進めています。公民館は社会教育活動の場として、市民の「つどい・まなび・むすぶ」を支援する機能を有しています。しかし、今、社会においては、少子高齢化や将来的な人口減少により、人々の交流が減る傾向にあり、そこに追い打ちをかけるようにコロナ禍を迎えたことで、一層の人とのつながりの希薄化が浮き彫りとなっています。その影響がとりわけ地域における子どもや高齢者に現れているとすると、今、特に「子育て」と「高齢者」を「課題」として捉えていく必要があると考えます。公民館は学ぶ場であるとともに、人と人とを結ぶ場でもあり、地域づくりの拠点でもあります。地域に現れている「子育て」と「高齢者」の「課題」について考える際に、この三つの機能を持ち、地域に関わる公民館に求められる役割を考える必要があります。

まず、「子育て」について考えると、公民館を利用する子どもたちは、小学生や中学生が主で、公民館は放課後や休日等の時間の居場所として、あるいは更に学ぼうとする子どもたちを公民館の子ども関連講座等に受け入れたり、公民館まつりにも作品の展示等してもらっています。公民館以外でも多くの子どもたちが地域の行事等にも参加していることと思います。人と人とのつながりが希薄化するなかで、育児不安解消のための育児相談や不登校の問題等の家庭教育支援の講座も開催をしています。地域での人の交流が減る傾向にある現状で、子どもや子育てに関して公民館にどんな役割が求められているのでしょうか。学び、人と人をつなぐ機能の有する公民館は、子どもや保護者が興味・関心を持ち、必要としている公民館講座等を開催しもっと多くの人に参加してもらったり、また子どもが安心していられる場所として公民館の利用をもっと促していく必要があると考えます。その他に、公民館のある地域と学校の連携・協働については従来にも増して求められています。地域のつながりが希薄化している今、「学び」、「地域交流」、「世代間交流」の機能を持つ公民館の特性を生かし、子どもや子育てについて公民館の果たせる役割を考えてみる必要があります。

次に「高齢者」について考えると、厚生労働省の発表では2019年の日本人の女性平

均寿命 87.4 才、健康寿命 75.3 才、男性平均寿命 81.4 才、健康寿命 72.6 才でした。およそ 75 才を過ぎると要介護者として過ごす高齢者が徐々に出てきて、75 才を過ぎても元気に活動的に過ごすことが出来れば、生き生きとした生活を送ることが出来ると言えます。例えば、公民館でのサークル活動や主催事業に参加することで、自分たちの健康増進や楽しみ、生きがい、やりがいを得るという方法もあります。しかし、進む高齢化や人とのつながりの希薄化により、例えば、日常の困りごとに始まり、不明者、オレオレ詐欺、避難行動要支援者などが現実の課題として現れています。公民館は生涯学ぶことができる場であり、また地域の拠点でもあります。高齢化が進む現在、高齢者が直面する課題に対して地域の公民館が果たす役割を考えてみる必要があります。

以上のことから、上記 1 の「検討を要する事項」について諮問いたしますので、御審議の上、答申くださるようお願いいたします。

3 答申希望日 令和 7 年 3 月

6 茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会委員

任期2年（令和5年4月1日～令和7年3月31日）

氏名 ふりがな	役職	適用法令	備考
亀山 計次 かめやま けいじ	会長	茅ヶ崎市立 公民館条例 第17条	南湖地区社会福祉協議会
三觜 健一 みつはし けんいち	副会長	茅ヶ崎市立 公民館条例 第17条	南湖地区まちぢから協議会
鈴木 葉子 すずき ようこ	幹事 教育基本計画 審議会委員	茅ヶ崎市立 公民館条例 第17条	西浜学区青少年育成推進協議会
渡邊 千奈 わたなべ ちな		茅ヶ崎市立 公民館条例 第17条	南湖公民館利用者懇談会
上野 明子 うえの あきこ		茅ヶ崎市立 公民館条例 第17条	西浜中学校PTA
人見 隆志 ひとみ たかし		茅ヶ崎市立 公民館条例 第17条	茅ヶ崎市小学校長会
熊澤 俊晴 くまざわ としはる		茅ヶ崎市立 公民館条例 第17条	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校

7 茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会会議の開催状況

令和5年度 南湖公民館運営審議会会議の開催状況

催日	議 題
7月27日(木)	第1回会議 議題1 会長及び副会長の選出について 議題2 令和5年度事業予算及び事業計画について 議題3 令和5年度南湖公民館事業報告について 議題4 社会教育委員会議の報告について 議題5 その他
3月13日(水)	第2回会議 議題1 令和5年度南湖公民館主催事業報告について 議題2 令和6年度南湖公民館予算について 議題3 令和6年度南湖公民館主催事業計画（案）について 議題4 その他 (1) 令和6・7年度教育基本計画審議会委員の推薦及び令和6年度公民館運営審議会委員連絡協議会幹事の選出について (2) 令和5年度県公連公民館長・公民館運営審議会委員等研修会の報告について (3) 茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会に対する諮問について (4) その他

令和6年度 南湖公民館運営審議会会議の開催状況

催日	議 題
6月4日(火)	第1回会議 議題1 令和6年度南湖公民館主催事業報告について 議題2 令和6年度茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会に対する諮問について 議題3 その他
11月20日(水)	第2回会議 議題1 令和6年度主催事業報告について 議題2 令和5年度決算報告について 議題3 答申について 議題4 その他
3月11日(火)	第3回会議（予定） 議題1 令和6年度主催事業報告について 議題2 令和7年度予算（案）について 議題3 令和7年度主催事業計画（案）について 議題4 答申（案）について 議題5 その他

社会においては子育てや高齢者についての課題がある中、地域の
公民館に求められる役割は何か。

(答申)

令和 7 年 3 月発行

茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会

編集 茅ヶ崎市教育委員会教育推進部社会教育課南湖公民館

〒253-0086

神奈川県茅ヶ崎市南湖六丁目 1 5 番 1 号

電 話 0467-86-4355

市ホームページ <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp>

メールアドレス kou_nango@city.chigasaki.kanagawa.jp

